

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	ロッテンブルク林業大学における海外先進林業地実習	
学部・研究科名	農学部	
プログラム実施期間	2017年9月16日～9月25日	
研修先(国・都市・施設名)	ドイツ・バーデンビュルク州一円・ロッテンブルク林業大学	
参加者数：6名		知の森からの支援者：3名
プログラム概要	ロッテンブルク林業大学はドイツ南部の林業生産の中心シュヴァルツヴァルトを有する、バーデンビュルク州(BW州)に立地し、州内及び他州の森林局・営林署のフォレスター(森林管理官)を養成している。また近年は産業界からの要請をうけ、森林から木材市場・環境を含む林産業全般の人材育成を担う大学であり、欧州各地より学生が集まっている。このような、先進林業地の人材育成を担う大学で森林資源管理・育林体系・狩猟制度・バイオマス利用・レクリエーション利用など国内にない視点も合わせて、多岐に学ぶことで、研究や技術の進展だけでなく、グローバルマインドを持って地域で活躍するための知見を身に着ける。	

実施状況・成果

ロッテンブルク林業大学と日本の8大学等共同の日独サマープログラムとして実施された。森林経営はその土地の気象や立地条件、森林経営の歴史、社会システムの違いによって多様である。その中でドイツ林業は、システム化および過去のデータの集積に基づき、高度に洗練化された体制の構築に成功している。同時に脱原発をいち早く掲げてきた経緯から、自然再生エネルギーの分野が突出した国家でもある。本サマープログラムでは、包括的にドイツ林業の実態とその背景を捉えることを目的として設置された。なお講義は全て英語で行われた。

持続的林業経営を実現しているドイツにおいて、その背景に養分保持力が低いという森林土壌の特性、攪乱頻度の低さなどが前提になっていることを体系的に学べた。同時に集約化、システム化による低コスト化に極めて積極的であった。また木材生産だけでなく、自然再生エネルギーの取り組み、森林教育やレクリエーション利用など、日本より早期に取り組み成果を挙げてきている点は印象的であった。

本プログラムを通じて、明確な経営方針(例:土壌が貧栄養であるため皆伐を行わない)、堅実なデータの蓄積、柔軟な国民要望への対応など、ドイツ林業の特性が把握できた。これらは過去の森林経営の失敗に学ぶところも大きいと説明を受けた。歴史に学ぶことに加え、教育に対しても積極的であり、ドイツ林業の持続的発展性の確立に人材育成が寄与していることが伺えた。

学生の声①-総合理工学研究科 学生

ドイツの大学の学生と交流できる機会があったらより充実したものになったと感じました。大学で行われている研究についても、学生目線からの話も聞けると留学等を考える上で良い機会になると思います。

学生の声②-農学部 学生

毎日が充実したプログラムでした。特にドイツにおける森林施業方法から利用までの一連の流れに直接触れることができて良かったです。

シュタットガルト都市林の管理方式



高性能機械による伐採・搬出現場

